

■音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

■音楽科の特質に応じた見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト**○音楽科における「学びを変える」授業づくりとは**

生徒一人一人の個性や興味・関心を生かした歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動を展開していくことです。そのためには、生徒の興味・関心を引き出し、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする活動を充実させることが大切です。

○音楽科における「学びをつなげる」授業づくりとは

表現及び鑑賞の幅広い活動を、継続的に深まりをもって行うことにより、音楽科で育成する資質・能力が育まれていくようにすることです。そのためには、生徒の発達の段階や学習の系統性を踏まえながら、多様な音楽活動を行い、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽に対する感性を豊かにする学習を積み重ねることが大切です。

○音楽科における「学びを高める」授業づくりとは

学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫し、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ることです。そのためには、見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問などを工夫したり、他者と気付いたことや感じ取ったことを共有、共感したりするなどの協働的な学習を適切に位置付けることが重要です。

■音楽科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容**○〔共通事項〕の取扱い**

各学年の内容に示した〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものであり、表現及び鑑賞の各活動と併せて指導することが重要です。各領域や分野の事項と〔共通事項〕で示されているア及びイとの関連を図り、年間を通じて継続的に取り扱うように工夫します。

○言語活動の充実

音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する価値などを伝え合う活動を取り入れることで音楽の価値意識を広げ、他者の感じ方や考え方等に共感したり、自分の感じ方等を深めたりするために、言葉によるコミュニケーションや言葉で表したことを音楽活動によって確認することを適切に位置付け、音や音楽と言葉を往還することが大切です。

○ICTの活用

ICTを効果的に活用することで、音楽を聴覚のみではなく、視覚など他の感覚と関連付けて捉えたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようになります。例えば、鑑賞の学習では、楽譜作成ソフト等やデジタル教材等を用い、演奏している箇所と楽譜とが連動することで、音楽を視覚的に捉えたり、個々のタブレット端末等を用い、気になる部分を繰り返し聴き返すなどが考えられます。

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための音楽科の学習活動例

学びに向かう力、人間性等

音楽や詩の内容が表す情景や心情に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

知識及び技能

イ(ア) 【共通事項】(1)イ

イ 次の(ア)について、理解すること。
(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

*鑑賞なのでウはなし

思考力、判断力、表現力等

ア(ア) 【共通事項】(1)ア

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

《既習の内容との関連》

小学校第6学年 A 表現(1)歌唱
○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりなどから、曲の特徴にふさわしい表現の工夫を考える活動
(教材名:「思い出のメロディー」、「未来への賛歌」等)

小学校第6学年 B 鑑賞(1)
○曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりなどから、曲全体を味わって聴く活動
(教材名:「春の海」、「ハンガリー舞曲第5番」など)

《言語活動の充実》

知覚、感受したことを言語(音声や文字)で説明し合うことを通して、同じ音楽を聴いても様々な捉え方があることに気づき、さらに考えを深める。



言葉でやり取りしたことを、実際に音楽を聴いて確認し合うことで、言語(音声や文字)で表したことが音や音楽との関わりが捉えられるようにする。

言語活動

音楽活動

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇知覚・感受に関わる言葉のヒントや、書き方についてのテンプレートを提示する。
◇各要素ごとに着目させながら、1つずつ問いかけながら考えさせる。

《関連する教材例》

「春-第1楽章-」
(教育出版社 音楽のおくりもの1 / 教育芸術社 中学生の音楽1)

曲想と音楽の構造との関わりなどから音楽を自分なりに評価し、よさや美しさを味わって聴く力を育てる活動

・音楽や詩の内容が表す情景や心情に関心をもちながら、曲想と音楽の構造との関わりについて考える力。

- 1. 詩に描かれている情景や心情について、個々のタブレット端末で音楽を聴き返しながら、音楽でどのように表現しているのかを考える。(シューベルトの作曲の工夫、歌手の表現工夫)
- 2. 1.で知覚、感受したことをペアやグループ、全体で説明し合い、共有したことについて、音楽で確かめたりしながら思考を深める。

・曲想と音楽の構造との関わりから生まれるよさや面白さについて、根拠をもとに自分なりに考えながら、音楽を評価する力。

- 3. 1及び2の活動から得た知識を根拠に、自分なりに『魔王』の音楽の魅力について評価し、批評文にまとめる。
- 4. グループや全体で批評文を発表し合い、同じ曲に対する評価の多様性に気付く。

●詩に描かれている情景や心情について、音楽でどのように表現しているのかを考える活動。

・情景や各登場人物の心情を表すためのシューベルトの作曲の工夫や歌手の表現工夫について、場面や登場人物を抜粋し、下記の(例)に示した部分などに着目させて考えさせる。

- (例) ♪ ピアノの前奏部分や伴奏について、リズム、旋律、調、強弱等に着目させる。
♪ 「父」と「子」の旋律やリズム、強弱(歌手)、音色(歌手)等に着目させる。
♪ 「子」の「お父さん(Vater)」の歌詞部分の旋律(全4回)を取り上げ、旋律、強弱(歌手)、音色(歌手)等に着目させる。
♪ 「魔王」の旋律を取り上げ、リズム、調、強弱(歌手)、音色(歌手)等に着目させる。

・『魔王』の音楽の特徴について、各要素や各要素の関わりから知覚したことと、感受したことを関連させながら、ワークシートや教科書へ記述させる。(右図「参考ア」はワークシートを用いた例【前奏部分】)
・音楽や楽譜からの気づきについて、ペアやグループ、全体等で説明し合い、自分が気づかなかった点や自分の考えとは異なる点について、音楽を聴き返して確かめさせたり、共有したことによって新たに気づいた点などを赤色で加筆させたりする。

参考ア ワークシートの例【前奏部分の場合】

Table with 3 columns: Music element (e.g., Rhythm, Melody), Description of the element, and Imagined scene/emotion (e.g., Horse running, fear). Includes a red circle highlighting the connection between elements and imagination.

見方・考え方を働かせる生徒の姿の例

・「音楽のどのような工夫により(根拠)、詩に描かれた情景や心情を表現することができるのだろうか」という問いを持ち、「魔王」の音楽や楽譜から根拠を見つけ出し、自分なりにこの曲のよさや美しさ、面白さについて考えている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

音楽に対する感性を働かせるための音との出会いの工夫
原語を聴かせ、この曲の印象について発表させたり、自由に話し合わせたりすることで、楽曲に関心を持たせる。

音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせるための工夫
音楽を形づくっている要素のうち、どの要素に着目して考えるのかを提示し、意識させた上で思考させる。また、各登場人物の旋律を抜粋して考えさせることで、登場人物ごとの旋律の特徴や心情の変化に気付かせていく。いずれも、音楽(聴く)だけではなく、楽譜(視覚)を用いて関連させながら思考を促す。

捉えたことを自己のイメージや感情と関連付けるための工夫
音や要素の働きから生まれる様相や要素同士の関連によって生まれる様相によって、どのような感情やイメージが湧き起こったのかについて考えられるよう発問や問いかけを工夫する。

Table showing learning objectives for 'Main Qualities and Abilities System' across elementary, middle, and high school levels. It details the progression of 'Thinking and Judgment' and 'Knowledge' skills.